

ワダツミギボシムシ

ギボシムシ綱ギボシムシ科

石川県カテゴリー 地域個体群

国カテゴリー なし

Balanoglossus carnosus (Willey)

選定理由

能登半島が日本海沿岸における最初の生息発見地。

形態

体はミミズ型で全長は最大約80cmに達する。頭部は丸く、襟と生殖翼の接合部は左右の自由端が接し、肛門は体軸と直角に開く。体色は黄色っぽく、強烈なヨウドホルム臭を放つ。

国内分布

インドー西太平洋の熱帯水域の河口部に多く、太平洋沿岸の千葉県館山以南に分布する。

県内分布

能登町の九十九湾を含む小浦から新保、そして恋路の水深2m～10m前後の砂泥底に生息する。ただし、調査が進めば生息地は増えると考えられる。

生態

砂中に潜入し、吻端付近には2～3cmの砂の窪みを、また肛門付近には直径20cm程度のなだらかな糞塊を築く。能登における産卵期は夏。

生息地の条件

海底砂の粒度はミサキギボシムシとほぼ同じく細砂(<0.25)～極細砂(>0.06)が主体であった。

生存の危機

浅い砂泥底が主な生活場所のため、埋立などにもなう生息適地の減少が危惧されている。

特記事項

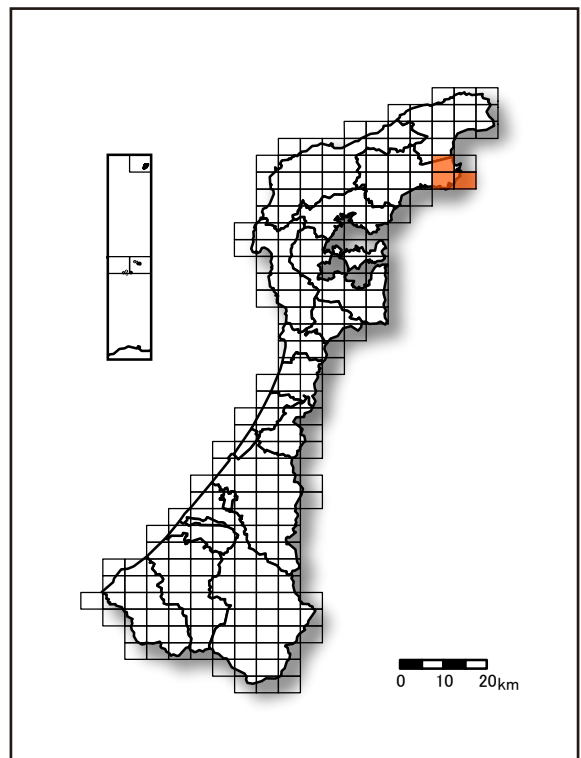
九十九湾にはハネナシギボシムシが生息する。

参考文献

坂井恵一. 2002. 能登半島で見つかったワダツミギボシムシ. 能登の海中林, (16): 6.
 坂井恵一・福島広行・東出幸真・小木曾正造. 2001. 日本海における初記録種, ワダツミギボシムシ *Balanoglossus carnosus* (Willey) (半索動物門、ギボシムシ綱)の能登半島沿岸での生態について. のと海洋ふれあいセンター研究報告, (7): 1-10



写真提供者: 坂井恵一



県内の分布